

報道関係各位

2016 年 8 月 24 日

**道内唯一の IED 適用保護継電器盤取扱いメーカーが、道内 5 箇所の水力発電所へ納入
2016 年末までに、納入した水力発電所の出力合計が 140,000kW に**

株式会社 電制(北海道江別市工業町、田上寛社長)は、北海道内の水力発電所の保護継電器盤に、海外の様々な電力設備で広く適用されている IED(インテリジェント・エレクトロニック・デバイス)を適用し、2016 年内に 5 箇所の水力発電所に IED 適用保護継電器盤を納入いたします。

【保護継電器盤とは】

発電所を含む電力系統において、短絡事故や地絡事故が発生した際に、遮断器へ制御信号を送り、事故箇所を切り離すことで、事故の影響拡大防止を図る装置のことです。

【IED 適用保護継電器盤の特長】

IED は汎用型の保護・制御・計測機能を一体化したユニットであり、低コスト、コンパクト化、多機能化が特長です。特に IED の特長の一つであるコンパクト化を活かして、盤構成を極力標準化できるように配電盤 1 面に IED を複数台実装し、保護対象ごとに機能分散させる構成を採用しながら、従来に比べ低コストな装置を供給することが可能となっています。

また、IED はプログラマブルな装置であり、自社内でプログラミング可能です。

したがって、発電所毎に異なる保護シーケンスでも IED 内部のソフトロジック(Flex Logic)を適用した構成とすることで自由にカスタマイズが可能であり、設計工数の削減にも寄与しています。

【納入実績について】

2015 年に実運用となった北海道電力(株)の砥山発電所への初号機納入に続き、2016 年 3 月には同社金山発電所に納入した装置が実運用になりました。

7 月には同社の水力発電所へ納入が完了し、9 月以降にも北海道電力(株)の 2 箇所の水力発電所、北海道企業局の 2 箇所の水力発電所へ装置の納入を予定しており、2016 年は合計 5 箇所の水力発電所に納入いたします。

また、道内では、当社が唯一実運用に供した IED 適用保護継電器盤を納入しており、2016 年に納入する 5 箇所とすでに実運用となっている 2 箇所の水力発電所の出力合計は、140,000kW となる見通しです。

【保守メンテナンスについて】

万が一、IED が故障しても、自社内に保守機材を確保しており、迅速な一次対応が可能です。

今後は、納入実績の更なる拡大に向けて、主に道内の発電事業者向け装置への IED 適用を進めていきたいと考えております。



北海道電力(株)砥山発電所へ
納入した IED 保護継電器盤